

令和4年度 学校における働き方改革推進モデル校 実践報告 庚午中学校

学校の概要

- 令和4年度の重点項目
 - ・学校・家庭・地域との連携を図り、信頼される学校づくりを目指す。
 - ・基礎学力の定着を図り、主体的に学習する生徒を育てる。
 - ・自己有用感を育み、自他を大切にする生徒を育成する。
- 住宅・商業施設が混在する地域にあり、生徒数776名（令和4年5月1日現在）である。

教育理念 「生かす教育」



令和3年度の取組

〈教頭の担う業務の見直し〉

- 窓閉めや電気機器の消灯等を他の教員で徹底して行うことで、教頭は確認のみとした。
- 16:45と生徒の下校前に放送を入れ、教員の確認を促した。

教頭が1日の見回りに要する時間
取組前 30分 → 取組後 20分

〈定時退校日の取組〉

- 毎週各自での実施に加え、月に3回の会議日を定時退校日として、5時間授業、原則部活動休養日とした。
- 教職員の月予定表や学年掲示板に明示し、見通しを持てるようにした。

日々の定時退校を
意識している 69.9%

今日は定時退校日ですね
昨日より1時間
早く帰らしましょう！

〈年次有給休暇を計画的に取得するための取組〉

- 半月ごとに1か月後までの年休予定を計画表に入力し、時間割や学級指導等を調整。
- 時間休を含め月1日の年休取得を目標に取り組んだ。

12月		2		学年													
	1組担任 A					前澤 大内美 橋本 大石				2組担任							
	空研	1	2	3	4	原真	5	巳	空研	空研	1	2					
1 水																	
2 木							休	休	休	休		休	休	休			
3 金																	

年次有給休暇が取得
しやすくなった 54.9%

令和4年度の解消すべき課題

- 勤務時間外の在校等時間が80時間超の教職員を0%にするため、業務の効率化や役割分担の見直し等に取り組む必要がある。

R3年度 勤務時間外の在校等時間が 80時間超の教職員

連続3か月平均80時間超	8人	16%
--------------	----	-----

- 4月の校内アンケート調査において、勤務時間外の要因として授業準備と回答する割合が高いことから、授業準備に係る負担軽減に取り組む必要がある。

勤務時間外の在校の要因となっている業務

授業準備：52.4% 保護者対応：42.9%
部活動・クラブ活動：38.1% 学年・学級経営：38.1%
職員間の打合せ・指導・相談：33.3%
調査物・報告書等対応：33.3%
朝の業務：31% 成績処理：31%

令和4年度 of 主な取組

ICTの活用による業務の軽減・効率化

◎ 授業準備や成績処理、学級指導等に関して

- 学校独自の管理系サーバーを活用し、教材プリントや評価問題などの共有を教科会等を通じて促し、その活用を進めることで、授業準備等にかかる時間を縮減した。
- 採点システムを活用することで、採点業務や素点確認カード作成業務等を、教科担当教諭や学年担当教諭で分担して行った。
- 学校評価アンケートや行事（体育祭・合唱コンクール）アンケート等にGoogle Classroomを使うことで、配布・回収・集計の作業時間を縮減した。

◎ 校務全般に関して

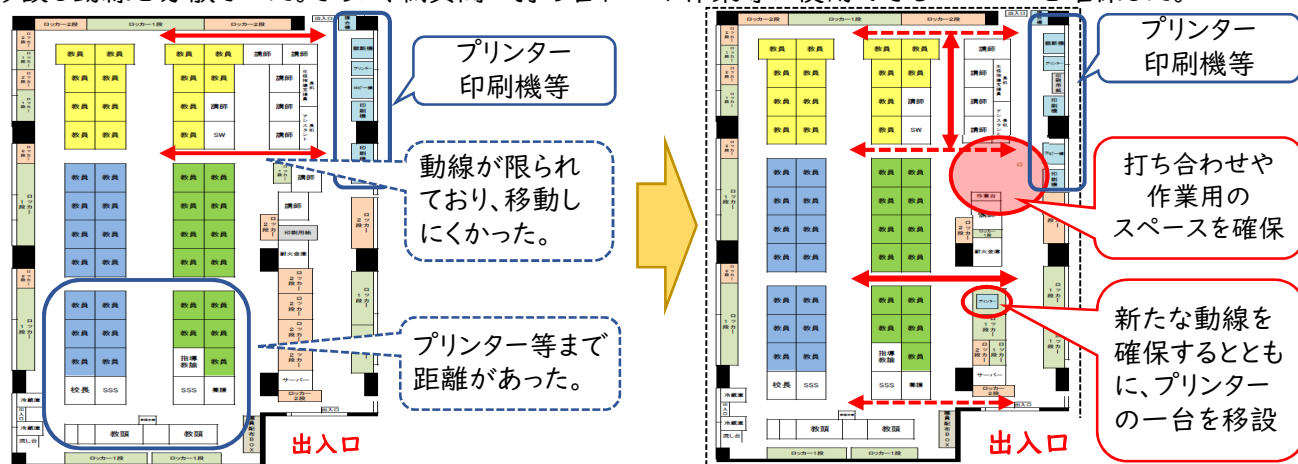
- 出勤簿をデータ管理することで、記入や確認・整理にかかる時間を縮減した。教職員が出勤したらPCをチェックすることの定着にもつながった。
- 留守番電話機能を拡張し、留守番電話の設定・解除が自動で行われるようにすることで、担当していた教頭の負担を軽減した。
- 簡単な確認事項など保護者との連絡において、了解が得られた場合は、メールアンケートで対応できるようにすることで、電話対応の件数を削減した。

8:20までに出勤されたら「1」を入力してください。

出勤チェック表		職名		教諭		氏名		庚午 一郎											
月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15			
4	1	1	日	1		1				1	日	変更							
5	日	休日	休日	休日		通称日	日								通称日	日			
6				通称日	日							通称日	日						
7		通称日								通称日	日								

職員室のレイアウト変更

○ 講師用デスクの移動や職員室内の物品整理、ロッカーの移動等により動線を増やすとともに、プリンターを移設し動線を分散させた。さらに、職員間の打ち合わせや作業等に使用できるスペースを確保した。



まとめ

◆校内アンケート結果等

- 「ICTの活用による業務の縮減・効率化」に係る取組について、肯定的な回答を多く得られた。ICTを活用することで、効率化による時間短縮だけでなく、業務を複数で行うことができ、業務分担を進めることにもつながった。また、独自の取組として実施した出勤簿のデータ管理についても、肯定的回答が多く、今後も続けていきたい。
- 「職員室のレイアウト変更」について、プリンターが近くなったり、職員室内の移動がしやすくなったりするなど、職員室環境の改善ができた。授業準備に係る時間短縮にもつながった。しかし、打ち合わせや作業のしやすさに効果を感じた教職員はあまり多くなかった。特に、職員間の打ち合わせは時間外勤務の要因にもなっており改善を検討したい。

「ICTの活用による業務の縮減・効率化」に係る 校内アンケート調査結果

調査項目	肯定的回答の割合
学校独自の管理系サーバーの活用	76%
採点システムの活用	100%
Google Classroomの活用	96%
出勤簿のデータ管理	80%
メールアンケートの活用	97%

「職員室のレイアウト変更」に係る校内アンケート 調査結果

調査項目	効果を感じた教職員の割合
移動がしやすくなった	75.8%
職員室内の見通しが良くなった	36.4%
打ち合わせや作業がしやすくなった	12.1%
作業効率が向上した	12.1%

◆プランの達成目標に対する実績(12月末時点)

- 目標1「全教職員の年間月平均の勤務時間外の在校等時間:45時間以下」については42.7時間であり、昨年度を0.8時間下回り、目標を達成している。
- 目標2「連続した3か月平均で勤務時間外の在校等時間が80時間超の教職員の割合:0%」については5.6%であり、昨年度より大きく減少している。
- 目標3「年次有給休暇の平均取得日数:16日以上」については9.2日であり、昨年度より0.3日増えている。

プランの達成目標に対する実績

項目	令和4年度 (12月末時点)	令和3年度 (12月末時点)
目標1	42.7時間	43.5時間
目標2	5.6%	16.0%
目標3	9.2日	8.9日

2年間の取組を通して

- 1年目は、働き方改革の目的や必要性を教職員に浸透させることに力を入れた。こうしたことで、2年目は、多くの教職員が計画的・効率的に勤務することを意識したりするようになるだけでなく、教職員から取組のアイデアが出されるようになった。全教職員で取組む意識づくり・体制づくりが大切であると感じている。
- 今後、全教職員で学校の目指す方向性の一層の共有を図り、計画的・効率的で効果的な取組を推進していくことで、教育の質を向上させるとともに、教員の人材育成にもつながる働き方改革となるよう取り組んでいきたい。

取組に対する講評

- 職員室のレイアウトで動線を工夫されて使い勝手が良く、またアンケートでは職員室の雰囲気の良さが評価されており、取組のアイデアなど意見が言いやすい環境が良い。
- 生徒指導など時間外の会議・対応等での負担感が見受けられ、ゆとりを持って子どもと接する時間確保に向け、行事・分掌等について思い切って見直されていくと良い。

善積 康子 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 主席研究員(元中央教育審議会「学校における働き方改革特別部会」委員)